

花嫁を女優オーラで包む 揺れるブーケは進化し続けています!

KAORUKOさんの代表詞ともいえる、しなやかに揺れるブーケ。
今のスタイルにとり替えては、数々の変化がありました

1999年



桂山美さんのグランドコレクションで、グリーンネックレスを中央、トウシューズで飾らしたブーケを提案。その斬新な発想に、桂さんも感動。

2000年



研究と開発を重ね、ワイヤリングによってブーケを綺麗に揺らす技術を開発。透明感があり、手にする人がおのりおのり揺れる。

揺れるブーケができるまで



既成具合やあしらう場所によって、同じ花でも使うワイヤーの番号や長さは違ってきます。中央の主役花は太いワイヤーを使って固めに、先端の小花や葉ものは細いワイヤーではかなりに揺らして、KAORUKOさんは揺れるような手さばきで花を組み合わせてます。

30歳

38歳

野門五郎・三井ゆりさんの
挙式・披露宴の花を担当

この年結婚した野門五郎・三井ゆりさん夫妻の結婚式のフラワーコーディネートを担当する。有名な挙式の装花やブーケの依頼も増加。豪華客船や有名ホテルのフラワープロデュースなども担当。

39歳

日本人初!
パリの花を担当

日本人のフラワーデザイナーとして初めて、パリオートクチュールコレクションのフラワーコーディネートを担当。日本の装花、ブーケをブーケに使用(写真)。トウシューズなどで全国を飛び回る。



41歳

揺れるブーケが完成に近づく

専門学校にKAORUKOメソッドの揺れるブーケが導入される(揺れるブーケについては左のコーナーを参照)。認定制度もでき、揺れるブーケがほぼ現在のスタイルに近づく。揺れるブーケの特許も申請。

信じてれば
必ず夢はかなう。
運命の女神が
そう私に
教えてくれました

今こそ、各界の著名人や有名ブランドがこぞブーケや装花を依頼し、パリのコレに上座を奪われ海外に注目の場を占めているKAORUKOさん。でも、若い頃はごく普通の会社員でした。このまま結婚して子どもを産み、平凡な毎日を送ることも思っていたの。それを弱めに察されたのが「花」でした。山あり谷ありの日々を乗り越えられた理由

KAORUKOさんは、当時の日本にはなかった、花を含めて装式全般をプロデュースするコーディネーターになる、という夢をずっと持ち続けていた。そして、あきらめなければ夢は必ずかなう、という強い信念も。それがあつたから、会社員の傍ら、花のレッスンとドレスショップの研修で忙しい3年間、という生活にも耐えられました。夫の産後退院も同行したことも、やりたかったことができずに焦りを感じたけれど、「いつかは必ず」と信じ続けました。だからこそ、なのでしょう。移り住んだ横浜で桂山美さんと出会い、運命の扉が開かれたのだと。もちろん、その後も決して順風満帆ではありませんでした。仕事で赤字を出して家計を切り崩すはめになったり、女嫁さんの結婚式で作ったブーケをすりかえられたり、仕事と家庭のバランスが崩れ、旦那が不登校になったり。それでも、旦那がききもあきらめなくて、その先をコツコツ続けること、夢は必ず好転する。技が来るの。私

て、2011年

くのは、それぞれの
喜に選りあうように
揺れる。そしてブー
ケが揺れて見
るの軽やかな。ドレ
スを豪華に美しく
揺れるブーケです。

※次号巻末(12/7発売)もKAORUKOさん「花」の話題、後編が続きます。お楽しみに。

KAORUKO ヒストリー

20歳

フラワーアレンジメントと出会う

親大を卒業し、大手企業に就職。同業入社
の夫とすぐに結婚が決まる。女性誌で飾りブ
ラアレンジメントの存在を知り、「これだ!」
と感動。その後、憧れつつ完全に離職し、世
事を経験するがレッスンを通う。

37歳

桂山美さんのショーで
光るブーケを提案

桂山美さんの年、ミレニウム・コレクションのテーマ
に掲げた「宇宙」「未来」を表現するために、光る小
物を取り入れた輝きのブーケを提案。「花時間」を始め、
雑誌などにも発表する(写真)。頭角を現してまた
KAORUKOさんにパッシングも。



23歳

自作のブーケで
挙式

先生の指導のもと、自作のブ
ーケ、ヘッドドレスで挙式。
ブライダルの花の仕事をした
くてレッスンにのめり込み、
土日はドレスショップでも相
模を積んで知識を蓄積。



25歳

夫の転勤で鹿児島へ
専業主婦生活に

得意の装具を出産。花とドレ
スのサロンを必須するも、夫
の転勤で収入もいらいない鹿児島
へ。奮闘するが、「これも運命
と子育てに専念し、ウエディ
ングに関する本を読んで勉強。



36歳

桂山美グランド
コレクションを担当

桂山美グランドコレク
ションで全ブーケのデザ
インを担当。友成子さんの
ブーケ(写真)を手掛
け、「揺れるブーケ」の
前身も誕生。本格的に装
飾の育成にも乗り出す。



29歳

横浜に移動になり
花の仕事にスタート

長男長女を産み、夫の転勤で
横浜に。主人に花を教え始め
る。美園のフラワースクール
の日本校にも入学し、渡米も。



KAORUKOさんに見守られ、そ
のブーケを手にした花嫁は、自信
に満ちて見送るようにはります。

32歳

オリジナル
ウエディングが評判に

会員制スポーツクラブでの挙式で新
婚夫婦の仕事のビルと香水を花
で装飾(右)。独創性が評判を呼び、



35歳

ブライダルの仕事で独創

桂山美さんのウエディングフラワーコンク
ルで入賞(写真)。横浜で指婚りの結婚式場
と契約し、年間2000組もの挙式をプロデュ
ース。桂山美さんのショーが話題で、有名女優の挙
式用ブーケを提案。海外での撮影や花嫁飾り
も担当に。一方で、多忙を極め、長男が不登校に。



33歳

横浜三越の紹介で
桂山美さんと出会う

横浜三越でアレンジ教室を始める。そのブ
ライダルフェアで、桂山美さん(写真右)のド
レスに合わせたブーケを制作。その後2年間、
横浜の桂山美さんのブライダルショーで、ブ
ラワープロデュースを手掛ける。



KAORUKO
ブライダルフラワープロデュー
サーの先駆者として、年間2万組の
オリジナルウエディングを手掛け
る。多くの女優や著名人の花を提
案し、日本人で初めてパリのコレ
クションのブーケをプロデュース。2010年の上海万博にも日本を代表
するアーティストとして参加。

花 - KAORUKO 撮影・中野博史 (P.揺れるブーケ)、山本正樹 (P.揺れるブーケ) 構成と文・斎藤あや 撮影協力・青山エリヤンションハウス 186